

学校運営計画		
学校運営方針	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と知性・教養を兼ね備え、他者と協働しながら積極的に課題を克服していく気概のある生徒を育成し、活力ある地域社会の実現に貢献する。 ・自主・自律の精神と校訓「済美（人として誇り高く、美しく生きる）」の精神を涵養し、時代の変化に柔軟に対応できる聡明で創造力のある人材を育成する。 	
昨年度の成果と課題	今年度の重点目標	具体的目標
<p>○令和4年度は感染症による臨時休業等で臨機応変な対応が求められたが、授業や集会等にオンライン配信を取り入れて教育活動を行った。教職員のICT活用については大きく前進したが、さらにICT環境を整え、授業改善を行い、これまで以上にICT活用を推進していく。また、観点別学習状況の評価について意見を集約し、さらに充実を図る。校務支援システムも導入2年目となるが、体制を整え運用する。</p> <p>○最後まで諦めない指導と粘り強い対策の結果、筑波大学、千葉大学、金沢大学等、国公立大合格者が102名となるなど健闘した。そのうち総合型・学校推薦型選抜による合格者は15名であった。今後も「進路実現ストーリー」を軸に全校体制での組織的な対応を継続する。教職員の課題は、多様な生徒の進路希望を実現するために新入試、新課程、探究学習へのさらなる対応力育成である。</p> <p>○部活動でも活動制限のある中、文武両道の精神で質の高い練習を行い、ハンドボール部の北信越大会出場、陸上部や水泳部等の全国大会・ブロック大会出場等、成果を上げた。文芸部は令和5年度全国高等学校総合文化祭（鹿児島大会）に参加予定である。学校行事では体育祭・済美祭（文化祭）・スポーツ大会・東山大遠足とすべての行事を実施できた。今後も実施方法を工夫し、部活動や学校行事を活性化していく必要がある。一方、部活動等の指導において超過勤務が多くならないよう教職員の働き方改革を進めることが課題である。</p> <p>○生徒の学校評価アンケートでは、質問項目「学校生活が充実しているか」に対して「そう思う」「だいたいそう思う」98%をはじめ、評価項目11のすべてで肯定的回答が86%以上となっている。また、「授業はわかりやすいか」の問いに対しては、9教科全てで89%以上が「大変わかりやすい、わかりやすい」と回答した。今後は探究活動とカリキュラムマネジメント、主体的・協働的な学びを念頭に更に授業改善を推進していく。</p> <p>○随時ホームページを更新して、本校の教育活動を保護者や地域に発信した。今後も保護者や中学生に、本校の魅力、教育活動が伝わる記事を掲載していきたい。</p> <p>○生徒の進級や卒業に向け、個別面談や生徒への声がけ等、全校体制で丁寧な指導を行った。いじめ認知については7件であった。いじめの防止や早期発見、組織的な対応を継続していくとともに更なる校内組織体制の整備、スクールカウンセラーと連携した研修会等を実施しいじめを見逃さない体制づくりをしていく。</p>	<p>1 生徒の実態に即した授業内容の改善とICT機器の積極的活用によって学習意欲を育むとともに、生徒の進路実現を可能にする確かな学力を養成する。</p> <p>2 「いじめ防止対策推進法」、及び「新潟県立長岡大手高等学校いじめ防止基本方針実践のための行動計画」に則ったいじめ防止対策等を組織的に行い、いじめの起こらない学校づくりを目指す。</p> <p>3 「総合的な探究の時間」等を通じて、知識及び技能、思考力・判断力・表現力及び学びに向かう力・人間性等の資質・能力を育成することで、自己と不可分の課題を「グローバルな視点」で発見し解決していく力を養う。</p> <p>4 アフターコロナを踏まえた、部活動の励行、学校行事等の計画実施</p>	<p>・PDCAサイクルを意識した指導計画の作成</p> <p>・授業公開と生徒からの授業評価に基づく指導方法の改善</p> <p>・iPad、電子黒板をはじめとするICT等を活用した授業改善</p> <p>・面談やGoogle Classroom、スタディサプリ、Classiを活用した情報共有により多様な生徒への支援を更に強化</p> <p>・ICT活用能力の向上</p> <p>・学校生活に関するアンケート、いじめに関するアンケート等を活用した情報収集と報告・連絡の徹底</p> <p>・教育相談委員会や学年会、職員会議等における生徒情報の共有の徹底</p> <p>・保護者、及び県教育委員会、医療機関、福祉施設、SC等の外部機関と連携した取組の強化</p> <p>・全職員による組織的・計画的な取組の実施</p> <p>・職員研修を活用した生徒指導力の向上</p> <p>・校内外の人材を活用した探究ゼミ活動の計画・立案</p> <p>・生徒が地域や社会の課題を知り、自ら課題を設定し、課題解決に向け、主体的・協働的に探究できるようにするための生徒指導力の向上</p> <p>・教科横断的な指導を取り入れた組織的な取組の実施</p> <p>・生徒自らの進路や世界に目を向けた取組の支援</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、授業や部活動、学校行事等の計画立案と実施</p> <p>・アフターコロナの発想で部活動や学校行事の実施方法の再検討</p>

○各教科

教科	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価		
				中間	年度末	
国語	様々な文章に触れることで深みのある教養を身につけさせ、豊かな人間性を養う。	生徒の主体的、協働的な学びを重視する授業を展開し、生徒の思考力、学習意欲を高め、積極的に授業に向かう姿勢を育てる。	・学校評価アンケートにおける生徒の高評価 A 80% B 70% C 60% D 60%未満	A	A	A
	生徒が進路希望を実現できるよう、基礎的な知識を定着させ、読解力・表現力を高めていく。	充実した授業を展開し、小テストや課題、補習などを通じて基礎学力を定着させるとともに、入試に対応できる実践力を養成する。	・進研模試の各学年の偏差値 A 53 B 51 C 49 D 49 未満	B	A	
地理歴史・公民	歴史的・地理的な見方や考え方を培い、現代の社会と人間についての理解と考察を深める。	教材の精選や工夫を行い、興味・関心を高める授業を展開する。	・学校評価アンケート 「わかりやすい、ためになった等」 A 80% B 70% C 60% D 50%	A	A	B
	社会性の基礎・基本となる知識を定着させるとともに、進路実現のための応用力を養う。	小テストや個別指導などを実施する。模擬試験で大学入試に対応できる学力をつける。	・進研模試の偏差値 A 53 B 51 C 49 D 49 未満	B	B	
数学	学ぶ意欲を高め、生徒の心に響く授業を心がけ、基礎的な知識や学力を定着させる。	教科書だけでなく、プリントや問題集、参考書等を活用しながら十分な演習を行い、基礎学力の定着を図る。	・学校評価アンケート 「家庭学習をしているか」 A 70% B 60% C 50% D 40% ・課題の提出率 80%	A	A	A
	事象を数学的に考察し、表現したり処理したりする能力を高め、それらを積極的に活用する態度を養う。	生徒の実態にあわせ、授業展開を工夫し、進路希望実現に必要な学力の養成を図る。	・1、2年の進研模試の平均偏差値 A 53 B 51 C 49 D 49 未満	B	A	
理科	自然現象や人間の営みを科学的な観点から眺める力を養成する。	教材・授業方法を工夫し、わかりやすい授業を展開する	・学校評価アンケート 「わかりやすい、ためになった等」 A 90% B 80% C 70% D 70%未満	B	B	B
	進路実現のための実践力を養成する。	補習、特編授業を活用し、大学入学共通テスト、国公立大個別学力試験、私大入試に対応できる実践力の養成を図る。	・進研模試の成績（学年全体の平均点偏差値）で 51 以上	A	B	
英語	基礎的な知識や学力を定着させる。	わかりやすい授業を目指し、小テストや課題などを通じて基礎学力の定着を図る。	・学校評価アンケートにおける生徒の高評価 A 80% B 70% C 60% D 50%	A	A	A
	進路実現に対応できる実践力を養成する。	模擬試験、入試過去問題、補習、特編授業を通じて実践力を養成する。	・進研模試の成績（学年全体の平均点偏差値）で 51 以上及び英検 2 級合格者 80 人以上	C	A	
保健体育	1 学期中に全ての生徒の学校体操を完成させる。	個々の習熟度に応じた指導を行い、達成度が遅い生徒には授業時間以外に補習を行う。	A 全員完成 B 3 人未完成 C 5 人未完成 D 8 人以上未完成	B	B	A
	生徒 1 人 1 人が、授業の内容を十分理解し、意欲的に取り組めるわかりやすい授業展開を行う。	單元ごとに身近な事例を出しながら授業を実施すると同時に運動共感を得やすいわかりやすい指導を行う。	・学校評価アンケートによる A 80%以上の生徒が達成 B 70% C 60% D 50%未満	A	A	
	スポーツテストにおいて、1 年生は県平均、2・3 年生は前年度の値を全種目で上回る。	主運動前に補強運動を実施し、基礎体力を向上させる。	A 全種目目標値以上 B 1 種目目標値以下 C 2 種目目標値以下 D 3 種目目標値以下	A	A	
芸術	生涯芸術を愛好する心情と、文化を尊重する姿勢を育てるために教材の精選と創作活動を目指す。	・基礎能力に沿った指導を行い表現技術、技能の定着を図る。 ・芸術の歴史を鑑賞活動によって学び、その様式美の豊かさを感受する。	・表現活動の自己評価による達成感、成就感 A 80% B 70% C 60% D 50%未満	A	A	A
	生徒の個性を尊重した授業展開と様々な芸術活動を通して、日常を取り巻く事象に感動する心情を育てる。	・演奏、制作などの自己表現の場を作り、自他批評する能力を養う。 ・表現の多様性を認め、創造的な表現につなげる。	・学校評価アンケート等による自他批評の客観化と達成感 A 80% B 70% C 60% D 50%未満	A	A	

家 庭	生活に必要な基礎的知識・技術を習得させ、衛生対策をとりながら授業の工夫を行い、より積極的・主体的な態度を養う。	<ul style="list-style-type: none"> ・体験学習や実習を年間計画に従い実施する。 ・視聴覚教材を積極的に活用する。 	学校評価アンケートで「わかりやすさ」や「取り組み」の肯定的回答が80%以上。	A	A	A
	専門的知識と技術の向上をはかり実践力を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・各種検定の指導の充実を図る。 ・行事や各種コンテストに参加・応募させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭科技術検定に全員が合格する。 ・1人1回行事やコンテストに参加する。 	B	A	
	校外への情報発信を活発に行う。	ホームページやオープンスクール、済美祭を通し家庭科の学習について情報を発信する。	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール等で生徒による学科紹介・作品展示を行う。 ・年3回以上ホームページの掲載情報の更新を行う。 	A	A	
情 報	<ul style="list-style-type: none"> ・情報技術を活用して、問題の発見と解決に効果的に情報を活用する。 ・情報社会の発展に主体的に寄与する能力と態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報があらゆる場面で活用されることを理解させ、科学的な考え方を習得する。 ・情報技術を用いて問題の発見と解決を習得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケートで「わかりやすい・ためになった等」の回答が80%以上 		A	A

○各分掌

分掌	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価			
				中間	年度末		
教務	学習指導と特別活動のバランスのとれた学校運営を図り、学習環境と学校生活の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した年間行事計画を作成し、授業時数の確保を図るとともに、各行事等を検証することで次年度計画の改善に努める。 ・各種奨学金制度の案内を行い、学習環境の充実に努める。 ・各種行事や式典を円滑に行い、学校への帰属意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当初授業計画のと通りの授業時数を確保できたか。 ・特別活動について、各種行事後のアンケートでの肯定的回答が8割以上か。 ・学習環境と学校生活の充実度について、学校評価アンケートでの肯定的評価 <p>A80%以上、B70%以上、C60%以上、D60%未満</p>	A	A	A	
	生徒や保護者、地域への情報発信を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールや授業公開を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールや授業公開の来場者アンケートでの肯定的回答 <p>A80%以上、B70%以上、C60%以上、D60%未満</p>	B	A		
生徒指導・保健環境部	生徒指導係	長岡大手高校生としての自覚を持たせ、高い規範意識を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・服装および頭髪については自分で責任を負うように恒常的に指導する（服装自由化宣言の意味を理解させる）。 ・携帯電話のマナーやネット、SNS等のトラブル防止の意識啓発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・服装頭髪指導を年に3回（4、8、1月）実施する。 ・月に一度、集会等で規範意識を啓発する。 ・1年生でネット、SNSによるトラブル防止教育を行う。 	A	A	A
		家庭や地域と連携した指導を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の問題行動に対して学年、クラス、家庭と連携して再発予防に全力をあげる。 ・地域、警察、他校と定期的に情報交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒指導連絡協議会」「地域の声を聞く会」「学校評価委員会」「第三者からの苦情や意見」を真摯に受け止める。 	A	A	
		交通安全の意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・自転車の運転マナーを徹底させる。並列走行、傘差し運転、ながら運転をさせない。 ・駐輪場の整理整頓を行う。 ・自転車には必ずステッカーをつけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登校指導を年に3回（4、6、9月）を実施する。 ・毎日、駐輪場の点検を行う。 ・整理できていないクラスは生活委員に直させる。 ・毎日、ステッカーの点検を行う。 	A	B	
		道徳心を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見に努める。 ・生活委員会と連携し、いじめ防止活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年に3回（6、11、2月）の生活実態調査を行い、悩みやいじめについて早期に発見、解決を図る。 ・校内における安全・安心の確保に努める。 	B	A	
保健環境係	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的に心身の健康管理ができる生徒を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査等を実施し、健康状態や管理状況を把握する。 ・生徒自身が健康課題を自己評価できるよう、健康チェックを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康調査を実施し職員で情報共有する。 ・入学後の心身の不調の早期発見のため1年生を対象として隔月で健康チェックに取り組む。（年5回実施予定） ・教育相談委員会と連携し、個別の支援にあたる。 	A	A	A	
	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康に問題を抱える生徒の支援を組織的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SCと連携して支援にあたる。 					
	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な学習環境作りに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大清掃・除草等を計画的に実施する。 ・美化委員会の日常的活動を通して自主的活動を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大清掃を月1回・除草を年2回計画的に実施する。 ・美化委員会の日常活動の徹底。 ・学校薬剤師による環境衛生検査の実施と事後措置を行う。 	B	A		

進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒の進路希望を実現するため、組織的・計画的な教育活動を総合的に展開する。 進路指導に係る重要な情報を職員間で共有し、全職員体制で進路実現のための適切な支援指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導計画に基づき、各進路行事の意義を再確認しつつ、統一の方針で指導する。 補習や模擬試験、検討会などを充実させる。 多様な生徒の進路希望実現のため、個に応じた細やかな指導にも留意する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの該当する質問に対する肯定的回答 A80% B70% C60% D50% 	A	A	A
		<ul style="list-style-type: none"> 模擬試験等の結果を分析して教員間で情報共有し、改善に向けた指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの該当する質問に対する肯定的回答 A80% B70% C60% D50% 	A	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 新しい学力観に基づく資質・能力の育成を組織的体制で行う。また、適切な情報を保護者と共有しながら、生徒自身が主体的・自律的に進路実現に向かうよう家庭と連携して支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な探究の時間を活用して、求められる資質・能力の育成を促す。 「進路の手引」を発行する。 主体的な学びを生徒に促し、PDCAサイクルに基づく着実な基礎学力の定着を支援する。 学年集会や保護者対象の進路説明会などを通じて、適切な情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの該当する質問に対する肯定的回答 A80% B70% C60% D50% 	A	A	
生徒会	学校行事やHR活動への生徒の積極的参加と自主的運営を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会執行部と教員の連絡を密にし、生徒会活動の活性化を促す。 生徒会やHR活動を可能な限り自主的に運営させる。 新型コロナ対策をしつつ、体育祭、済美祭、スポーツ大会の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの学校行事の項目で、肯定的評価 A80%以上、 B70%以上 C60%以上、 D60%未満 	A	A	A
	部活動をとおして、生徒の健全な心身を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 部活動説明会、壮行式、表彰式などにより、部活動への加入を促す。 各部活動ごとに目標を立て活発に活動する。 	<ul style="list-style-type: none"> クラブ加入率 A80%以上、B70%以上、 C60%以上、D60%未満 学校評価アンケートの部活動の項目で、肯定的評価 A80%以上、B70%以上、 C60%以上、D60%未満 	A	A	
教育情報	(涉外) 保護者、同窓会、後援会等との連携の中で、「生徒を育てる」という共通認識を深める。	<ul style="list-style-type: none"> P T A活動の広報。 東山大遠足の給水活動の保護者の参加要請。 保護者の大学見学会を企画し、意識喚起に資する。 	<ul style="list-style-type: none"> P T A新聞の年2回発行。 「大学見学会」出席率5%以上。 	B	A	A
	(情報視聴覚) 日常の教育活動等を保護者と地域に向け積極的に情報発信する。	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページや保護者用メールシステムを通じて情報発信を行うとともに、各学年、教科でG o o g l e C l a s s r o o mを使って課題等の指示等を行いI C T教育の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ更新計画表達成率 A100% B80% C50% 	A	A	
	(図書) 図書館の活用を促す。	<ul style="list-style-type: none"> 教科学習、学校行事、進路決定などの手助けとなるよう図書館資料を充実させ、利用の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書館だより年2回、新着図書案内などの広報誌年7回発行。 	A	A	

○各学年

学年	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価	
				中間	年度末
1 学年	心身ともに健全な生徒の育成を図り、基本的な生活習慣を確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や提出期限を厳守させ、授業に集中させる。 ・頭髮・服装の指導などをおおして規範意識を高め、学習に集中する雰囲気をつくる。 ・生活記録表を活用し、起床・就寝時間などの生活習慣の確立を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間前行動、提出期限を徹底できたか。 ・学校評価アンケート「服装や時間など集団生活のきまりを守っている」 A80% B70% C60% D50% 	A	A
	予習・授業・復習という基本的な学習サイクルを確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の確立を促し、課題の提出を徹底する。 ・スタディサプリを活用し、個別最適な学びの環境を提供し、生徒の主体性と学習意欲を伸ばす。 ・朝学習の実施により短時間集中学習を促すとともに、集中力を高めながら1限の授業への円滑な移行を図る。 ・適量の週末課題を出し、休日の学習習慣の維持を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅学習時間が十分に確保できたか。 ・週末課題等の課題を遅延なく提出することができたか。 ・学校評価アンケート「5教科の家庭学習(予習・復習)をしている」 A80% B70% C60% D50% 	C	B
	総合的な探究の活動をおおして視野を拓げ、学びを深め、進路目標を早期に具体化させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルな視点を持ちながら、地域課題に着目させ、課題解決のために仲間と協力して取り組む。 ・生徒・保護者に講演会等をおおして適切な情報提供を図る。 ・アセスメントテストや模擬試験などの結果を活用しながら、将来の進路目標を意識させる。 ・面談を通して生徒の進路意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者に適切な情報提供をした後、アンケート結果で満足度が得られたか。 ・探究活動の自己評価結果「探究活動に積極的に取り組んだ。」 A80% B70% C60% D50% 	B	A
2 学年	基本的な生活習慣を確立させ、心身ともに健全な生徒の育成を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や期限を厳守させ、授業に集中させる。 ・頭髮・服装の指導などをおおして規範意識を高め、学習に集中する雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校生活の決まり」を守り、身だしなみが崩れず、状況に応じた行動をすることができたか。 ・日々の計画を立て、規則正しい生活ができたか。 ・学校評価アンケート「服装や時間など集団生活のきまりを守っている」 A80% B70% C60% D50% 	A	A
	予習・授業・復習という学習サイクルを確立させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を実施して集中力を高め、1限の授業への円滑な移行を図る。 ・授業内容を精選・工夫し、主体的に取り組む姿勢を引き出す。 ・週末課題を調整し、適量の課題を出す。 ・スタディサプリを活用し、個別最適な学びの環境を提供し、生徒の主体性と学習意欲を伸ばす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に授業に参加することができたか。 ・週末課題の提出が徹底できたか。 ・自宅での学習時間が十分に確保できたか。 ・学校評価アンケート「国数英の予習・復習を行っている」 A80% B70% C60% D50% 	C	B

	進路目標を早期に具体化させ、総合的な探究の活動を通して学びを広め深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者に講演会等を通じて適切な進路情報を提供する。 ・模擬試験の結果を効果的に利用し、卒業後の進路についての目標を立てさせる。 ・面談を通して生徒の進路意識を高める。 ・グローバルな視点を持ちながら、地域の課題に目を向け、課題を解決するために仲間と協力して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者に適切な情報提供を行った後、アンケート結果で高い満足度が得られたか。 ・進路研究や進路講話等を通じて、具体的な進路について計画が立てられたか。 ・探究活動の自己評価から「探究活動に積極的に取り組んだ。」 A80% B70% C60% D50% 	B	A
3 学年	心身ともに健全な生徒の育成を図り、最上級生として1・2年生の模範となる学校生活を送らせる。	<ul style="list-style-type: none"> ・時間や期限を厳守させ、授業に集中させる。 ・頭髪・服装の指導などを通して規範意識を高め、学習に集中する雰囲気をつくる。 ・体育祭などの学校行事で指導力を発揮させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校評価アンケート 「服装や時間など集団生活のきまりを守っている」 A80% B70% C60% D50% ・学校行事で指導力を発揮できたか。 	A	A
	授業第一主義を貫き、効率的・効果的な学習を模索させていくことで、多くの生徒の進路希望実現につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習を実施して集中力を高め、基礎固めを行う。 ・授業内容を精選し、主体的に取り組む姿勢を引き出す。 ・6月から平常補習を実施し、大学入試に対応した学力の定着を図る。 ・特編授業を前期試験前まで実施し、実践力を養成する。 ・進路情報を適宜発信し、面談等個別指導を充実させる。 ・多様化する進路に対応するためC l a s s iを活用し、生徒の目標と実行のサイクルを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅での学習時間が十分に確保できたか。 ・面談を3回以上実施し、進路実現をサポートすることができたか。 ・学校評価アンケート 「進路実現のため積極的に学習している」 A80% B70% C60% D50% 	A	A
	探究学習でまとめた内容や身につけた方法を、教科の学習や現実の社会における新たな探究課題の設定・実践につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話聴講、進路希望調査、学習計画作成をとおして、自己実現・進路実現のためのプランを練る。 ・小論文指導、面接指導、志望理由書作成をとおして、自己を振り返り、将来の探究課題や実践の在り方を考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講話を実践に活かされたか。 ・計画立てて学習できたか。 ・探究活動の自己評価から「探究活動に積極的に取り組んだ。」 A80% B70% C60% D50% 	A	A

○各委員会

委員会	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価		
				中間	年度末	
人権教育推進委員会 男女平等教育推進委員会	人権教育・同和教育の充実に向け、職員自らが人権意識を高め、差別を許さない生徒の育成に努める。	校内外での研修に積極的に参加し、情報共有できるよう研修内容を記録に残し、人権学習会等で活用する。	・学期ごとに研修会の記録・報告があり、情報提供や共有の場を設けている。	A	A	A
	学校生活を通じて、高い人権意識とそれを支える豊かな心を育むとともに、人権啓発に関して保護者と連携を図る。	人権・同和教育講演会を1回、同和教育学習会を1回実施し、生徒・職員の人権意識啓発と豊かな心の醸成を図る。また、講演会について保護者に案内し、保護者との連携強化を図る。	・それぞれの講演会や学習会で生徒アンケートを実施し、講演会や学習会後の理解度を確認している。 ・講演会を保護者に案内している。	A	A	
		同和教育学習会で活用しやすい指導資料を作成し、活用する。	・学習会後に担当職員アンケートを実施し、資料活用のしやすさについて、肯定的回答を8割以上得ている。	A	A	
教育相談委員会	いじめの未然防止・早期発見に努める。	・定期的に委員会を開催し、いじめの兆候を早期に察知する。 ・いじめを察知した場合は随時いじめ対策委員会を開催し、対策を協議する。 ・いじめに関する職員研修を開催する。	・研修後のアンケートを実施、肯定的な評価 A80% B70% C60% D50%	B	A	A
	生徒の実態把握に努め、問題を抱えている生徒への支援対策を協議する。	・QU検査を実施し、問題を抱える生徒を把握し、面談、生徒の指導などに役立てる。 ・要支援群に入る生徒の情報を共有する。 ・スクールカウンセラーと連携して、生徒を支援する。	・QU検査を1、2年で実施する。 ・毎月、スクールカウンセラーから助言を受け支援にあたる。	B	A	
道徳教育推進委員会	教育活動全体を通して、生徒の豊かな心をはぐくみ、生命に対する畏敬の念を培うとともに、道徳的な心情、判断力、実践意欲を養い、社会性と規範意識を高揚させる。	校外研修の内容を校内に情報提供するとともに、校内研修を実施し道徳教育への共通理解を高める。	・研修会の記録・報告を作成し、情報提供を行う。 ・校内研修の実施	A	B	B
		教科・科目、学校行事、生徒会活動、部活動などに道徳教育の要素を取り入れた活動を計画、実施してもらう。	・年度末に、教科・分掌へアンケートを実施し、計画の実施状況を確認する。 A全教科で実施 B多数の教科で実施 C一部の教科で実施 D実施なし		B	
		学校の取り組みを保護者へ周知し、家庭や地域社会との連携を図り、道徳教育の意識高揚に努める。	・生徒・保護者へのアンケートを年2回実施し、道徳教育への意識が向上したかを確認する。 A大幅に向上した B向上した C有意な変化が見られなかった D意識の向上が見られなかった	A	A	
探究推進委員会	「総合的な探究の時間」の学校全体の方針を検討し、各学年の「探究的な学び」に関する支援、推進	・定期的なアンケート調査により探究活動が計画的に行われているか確認する。	生徒アンケートを定期的に行うことで探究学習に対する取組みや進捗状況を確認する。	B	B	B

を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・探究の時間について、学年と連携し適切な支援および推進を行う。 ・学校全体で探究の時間を行うべく、各年度の実施内容を記録し、次年度以降の実施に活用する。 	各学年での実施状況をまとめる。年度末に各学年に振り返りアンケートを実施し、次年度への資料として活用を促す。		B	
------	---	---	--	---	--

○全体

	具体的目標	具体的方策	評価基準	評価		
働き方改革	分掌と学年の業務内容の見直しと精選を検討し、企画運営会議や職員会議で情報を共有する。	企画運営会議や職員会議で、主任・主事、部長から取組について報告をしてもらう。	具体的な取組の成果がみられたか、検討すべき課題が整理できたかを基準とする。	中間	年度末	B
	長岡大手高等学校「部活動に係る活動方針」を作成し、確実に実施する。	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動に係る週休日等に参加する大会・試合を精選し、参加については校長が判断する。 ・年間休養日を100日以上設け、少なくとも週休日等に50日以上充てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「部活動に係る活動方針」や「部活動実施上の留意事項」等の通知に従い、感染症対策を施しながら計画的に活動できたかを基準とする。 ・年間休養日100日以上で、少なくとも週休日等に50日以上実施できなかった部活動の数 A 0 B 2以上 C 5以上 D 8以上	B	A	
	学校閉庁日や定時退庁日を利用してワーク・ライフ・バランスを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・業務を計画的に行い、定時退庁日には18時には退庁できるよう声掛けをする。 ・夏季休業中の平日に5日、年間をとおして週休日・祝日に12日の学校閉庁日を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退庁日に18時半以降に退庁した教員の数 ・教員一人あたりの夏季休暇や年休等の休暇の平均取得日数 ・年間720時間を超える時間外勤務の教員の数 A 0人 B 5人以上 C 10人以上 D 20人以上 A 12日以上 B 8日以上 C 5日以上 D 3日以下 A 0人 B 2人以上 C 4人以上 D 6人以上	B	B	
成果	1. 活気あふれる学校生活の復活 <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策と熱中症対策を徹底し、東山大遠足、体育祭、済美祭などの学校行事を実施した。済美祭では一般公開を行い、授業公開ウィークも実施することで、保護者や地域の方々から学校を開放した。PTA 行事保護者対象大学見学会も実施し大変好評であった。 ・生活委員による駐輪場整理や美化委員会によるゴミの分別が日常的に行われ済美の精神が発揮された。 ・学校評議員会、地域の声を聴く会に加え、新たに学校保健委員会を実施し、多角的な視点から学校運営を改善した。スクールポリシーの策定にあたっては、校内の委員会を中心に策定を進め、PTA 役員とも連携し、より良い学校づくりを目指した。 2. 部活動における活躍 <ul style="list-style-type: none"> ・創立120周年記念事業の一環として、屋外ステージやトレーニング機器などの環境整備が行われ、生徒たちはより活発に部活動に取り組むことができ、全国大会出場者が78名(延べ人数)と健闘した。 3. 校務支援システムとICT活用 <ul style="list-style-type: none"> ・担当者を中心に校務支援システムの体制が整い、今後も更なる整備を進めていく。 ・欠席連絡を電話ではなくホームサービスに切り替えるなど、効率的な工夫を行った。 ・校内アンケートや動静表等においてグループウェア活用し、ペーパーレス化を進めた。 ・生徒に貸与されたタブレット端末が授業、探究活動、課題のやり取り、アンケート等で活用され活用の場面が拡充した。 ・教員のICT活用能力も向上し、今年度はロイロノートを活用した小論文指導や探究活動が実施された。9月からnoteが導入され、生徒の活動の様子を毎週発信した。 4. 新教育課程と進路指導 <ul style="list-style-type: none"> ・1学年から新教育課程となり、観点別評価についても各教科で実施した。 ・進路関係では、全校体制での小論文・面接指導や特編授業・補習等を実施し、3月11日(月)現在で延べ94名が国公立大学に合格するなど健闘した。 			総合評価		A